

平成27年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立十三小学校

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査においては、国語・算数とも全国平均を下回ったが、学習理解度診断における通過率については、全学年 70% 以上を達成することができた。しかし、基礎的・基本的な内容の理解が十分でない児童や、一定の理解はできているものの、発展的な内容の理解は難しい児童がいるなど学力の二極化もみられる。家庭での読書や復習をする学習習慣が定着せず、困難をきわめている児童もある。また、自尊感情が低く、自分のよさを見出せなかったり、自信をもてなかったりする児童もある。話し合い活動や発表などを取り入れた児童主体の授業形態を重視するとともに、「読みの観点」の習得・活用、習熟度別指導、個別指導等で「できる」「わかる」を実感できる取り組みを行う。
- 早寝、早起きができていない児童は約 1 割おり、睡眠不足、偏りのある食生活など、健康面で課題がある。また、運動能力・運動習慣調査では、全国平均を超える項目もあるが、持久力や柔軟性に欠けることが明確になった。生活習慣を改善し、日常的に運動する習慣を身につけさせていくようとする。
- 学級での活動、なかよし班活動、異学年交流などを通して、相互理解の機会を多くとってきたので、温かい人間関係が築けるようになってきた。今後も、日々の学校生活や各教科・道徳・特別活動などを通して自分の気持ちを相手に伝え、相手の立場も理解できる児童の育成を目指していく。
- 家庭・地域の連携の推進は、年間の取り組みを当初に発信することで共通理解が図られ、目標の倍以上の参加を得ることができた。しかし、学校からの情報発信に关心を持ちにくい家庭があり、情報の内容を工夫したり、ホームページの内容をさらに充実したりして、取り組み内容が保護者・地域の方々に共通理解できるようにする。

中期目標

【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を 10% 以内にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を 80% 以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を 80% 以上にする。
(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)

【視点 健康・体力の保持・増進】

- 平成 28 年度、学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を 90% 以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、「食育」に関する指導力の向上を目指し、年 6 回以上の公開授業を実施する。平成 28 年度末の学校アンケートにおいて「食について楽しく学ぶことができた」という項目について「はい」と答える児童の割合を 90% 以上にする。
(マネジメント改革関連) (カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度、全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20m シャトルラン（持久力）」の平均記録を全国平均以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成28年度、学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成28年度、学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)
- 平成28年度、学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を90%以上にする。 (カリキュラム改革関連)

【視点 学校・地域の連携】

- 平成28年度、学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間400人以上にする。 (ガバナンス改革関連)
- 平成28年度、学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を90%以上にする。
(保護者アンケートにより検証する) (ガバナンス改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 平成27年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を15%以内にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を75%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- ③ 学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)

【視点 健康・体力の保持・増進】

- ① 学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 食に関する知識を広め、食への興味・関心を高めるために、全学年で「食育」に関する授業を実施し、学校アンケートにおいて「食について楽しく学ぶことができた」と答える児童の割合を85%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン(持久力)」の平均記録において、全国平均以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ① 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を85%以上にする。
(カリキュラム改革関連)

【視点 学校・地域の連携】

- ① 学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間350人以上にする。
(ガバナンス改革関連)
- ② 学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を85%以上にする。
(保護者アンケートにより検証する)
(ガバナンス改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

視点

＜学校運営全体を通した成果＞

本年度設定した数値目標を、すべての項目で上回ることができた。四つの視点共に、バランスよく取り組むことができたのは、小規模校ながら組織がしっかりと機能し、企画会や職員会議等での計画、修正、実行、反省が運営に活かされた結果だと考える。この成果を活かし、来年度の中期目標達成に向けての取組につなげるようにしていきたい。

＜項目や取り組みの重点の設定について＞

適切であった。

数値目標については、まだ中間時点での設定になるので、是非、来年度は中期目標が達成できるようにしていきたい。

＜目標を達成できなかった項目の課題＞

上記のように達成状況がC・Dの項目は無い。しかしながら、細かく見ていくと、学力の向上では、授業研究を伴う校内研究の充実の指標である、「国語が『好き』『楽しい』と答える児童の割合」が12ポイント目標に届いていない。また、道徳心・社会性の育成では、「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」「学校のきまり・規則を守っていますか」のアンケート結果が、中間評価時よりも低下している。今後、「安全で楽しい学校」のあり方を探求していきたい。

＜次年度に向けた取り組み＞

【学力の向上】

- 学力向上委員会を中心に組織的な学力向上の取組を継続する。
- 学習習慣・学習環境面での保護者・家庭への啓発、働きかけを推進する。
- 下位層の児童への具体的な対策

※ 英語活動

- ・ ノート指導
- ・ 児童間での議論（アクティブラーニング）
- ・ 話し合い活動の推進
- ・ 弁論大会、発表児童数を増加する
- ・ 自主学習に取り組む
- ・ 主体的な態度の育成
- ・ タブレットの活用

【健康・体力の保持・増進】

- 全体の種目の平均を全国に近づける等の目標設定にする。
- 家庭での習慣化を図る。

※ 睡眠

- ・ 姿勢
- ・ 体育時の工夫
- ・ 主体的な態度の育成
- ・ 地域の方々との連携（栽培）
- ・ 繩跳び大会、ドッジボール大会等

【道徳心・社会性の育成】

- 自尊感情を高める手立ての工夫を考える。
- 互いを認め合える集団作りが十分ではない。
- 常に友だちや弱者に対する言動が適切かどうか振り返らせる必要がある。
 - ・ 異学年交流・〇〇名人・なかよし清掃・十三五か条の心得・スリッパ並べ
 - ・ 合理的配慮
 - ・ ピア・サポート
 - ・ 清掃活動を通して美化を意識させる。

【学校・地域の連携】

- はぐくみネットの組織化
- ホームページ運営委員会

※ 創立90周年

大阪市立十三小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>① 平成 27 年度、全国学力・学習状況調査において無回答率の児童を 15 %以内にする。 (2. 6 %) (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 学習理解度診断における通過率および各単元テストの正答率を 75 %以上にする。 (学習理解度診断 77. 5 %、82. 9 %) (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 学校アンケートで「あなたは学校の復習をしていますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を 80 %以上にする。(87. 7 %) (カリキュラム改革関連・グローバル化改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 基礎・基本の定着】</p> <p>基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、3～6年生の国語と算数における習熟度別指導を充実させる。</p>	A
<p>指標 習熟度別指導を年間 540 時間以上実施する。(1050 時間)</p>	
<p>取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】</p> <p>国語科の研究や研修を通して、児童の読む力を育てる。</p>	B
<p>指標 ① 全学級が「読みの観点」の習得・活用に関する授業研究を年 1 回以上実施する。 (全学級が年 1 回実施)</p> <p>② 国語が「好き」「楽しい」と答える児童を 75 %以上にする。(63. 1 %)</p>	
<p>取組内容③【区分 言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>各教科や領域指導において、コミュニケーションの育成を図る言語活動を取り入れた授業を行う。</p>	A
<p>指標 各教科・領域指導において、ペア発表やグループ発表・全体発表などコミュニケーションの育成を図る言語活動を取り入れた授業を 1 日に 2 回以上行う。(1 日平均 3. 1 回)</p>	
<p>取組内容④【区分 学習習慣の確立】</p> <p>全学年で毎日課題を提供し、学校の復習をさせる。</p>	A
<p>指標 課題の提出率を 80 %以上にする。(87. 1 %)</p>	
<p>取組内容⑤【区分 I C T を活用した教育の推進】</p> <p>各教科や領域指導に I C T を活用し、授業を行う。</p>	A
<p>指標 各教科や領域指導で I C T を活用した授業を週 2 回以上行う。(週 3. 1 回)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【視点 学力の向上】年度目標の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査において、目標を大きく上回ることができた。 学習理解度診断や各単元テストにおいて目標を上回ることができた。 「復習をしている」と答えていた児童は目標の 80 %を上回ることができた。 学力向上委員会を中心に学力向上のための方策について話し合い、全教員で共通理解し、取り組み

を進めてきたことで、その成果が表れた。

取組内容①【区分 基礎・基本の定着】の進捗状況

- ・ 習熟度指導により個に応じた指導が行き届きやすくなり、児童の学習意欲が高まってきた。また、児童の学習理解度に合わせた指導を行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。
- ・ 「東書Web」の復習プリントや漢字・計算の練習プリントなどを活用し、基礎・基本の定着を図ることができた。
- ・ 習熟度学習担当者と学級担任が学習内容について密に打ち合わせをし、指導を行った。

取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】の進捗状況

- ・ 講師先生による国語科の研修会を2回実施、国語科の様々な研修会への参加、研修内容の伝達等を随時実施し、校内研修の充実を図ることができた。また、ミニ研修会を実施し指導法について確認することができた。
- ① 全学級による「読みの観点」の習得・活用に関する授業研究を実施することができた。指導案検討会、研究授業後の討議会、講師先生による指導講評を聞くことで、より良い授業展開の在り方について全教員が研究を深めることができた。
- ② 国語を「好き」「楽しい」と、答える児童は63.1%にとどまっており、さらなる工夫が必要である。しかしながら、国語を「前より好きになった」と答えている児童は、全体の70%を超えており、多くの子ども達の国語への意識の改善が見られた。単元を貫く学習での言語活動、友達との交流等を多く取り入れたことで改善されたと考えられる。また、階段へ暗唱詩文を掲示したことで、楽しく暗唱する子ども達が増えた。

取組内容③【区分 言語力や論理的思考能力の育成】の進捗状況

- ・ ペア発表やグループ発表、全体発表を取り入れた授業をどの学級も行っており、目標を上回ることができた。
- ・ 自分の思いを言葉で伝えたり、話したりすることが難しい児童もいるが、ペア発表やグループ発表・全体発表等を取り入れた授業を行ったり、交流する際の「話合いのしかた」を提示したので、抵抗なく交流できる児童が増えてきた。また、話したりすることが難しい児童も、言葉を発するよい機会となった。
- ・ 自分の考えとその理由も言うようになっているので、少しづつ論理的思考能力が身についてきた。

取組内容④【区分 学習習慣の確立】の進捗状況

- ・ どの学級も毎日課題を提供し、学校での復習に取り組めるようにしてきた。また、日頃の声かけにより、児童自身も課題に取り組むことについて意識できるようになってきた。課題の提出率は目標の80%を超え、概ね提出はできている。

取組内容⑤【区分 I C Tを活用した教育の推進】の進捗状況

- ・ 電子黒板・大型テレビ・パソコン・プロジェクターなどで、教材や資料、写真を提示し、児童の興味・関心を高め、理解を深めることにつながった。
- ・ 書画カメラで、児童のノートを映し出して考えを交流したり、インターネットを使った調べ学習や、デジタル教科書、NHK配信の教育ビデオを活用したりして、視覚的に理解できるよう学習を進めた。
- ・ 校内でのミニ研修を通して、ICT機器を活用した授業作りに生かすことができた。

次年度への改善点

【視点 学力の向上】の改善点

- ・ 学力向上委員会の取り組みを継続・改善していく。
- ・ 学習道具がそろわない児童への指導、スムーズに学習ができるように支援していく。
- ・ 生活習慣の確立、家庭での学習環境の整備等、家庭への啓発を様々な場面で行っていく。家庭学習の環境がなかなか整わない家庭については、ステップアップの活用を促していくようとする。
- ・ 学習の定着が難しい児童に対して、東書Web等を活用して繰り返し個別指導をしていくようとする。

取組内容①【区分 基礎・基本の定着】の改善点

- ・ 習熟の度合いに合った授業や学習内容の工夫を進める。
- ・ 学習内容を定着させるために、習熟時間の確保に努める。
- ・ 各教科における基本的なノートの書き方を定め、考え方の過程が見えるノート指導を行う。
- ・ 「放課後ステップアップ学習」「淀川区補習充実事業」の活用を更に進めていく。
- ・ 次年度も「できた」「わかった」喜びを味わえる授業を創造できるように、研修会などに参加し、習熟度指導の研究をさらに進めていく。

取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研究の充実】の改善点

- ① 研究のまとめを行い、全教員で共有することで来年度に生かしていくようとする。
 - ・ 今後も研究授業、ミニ研修会や伝達講習会を実施して研究を深めていくようとする。
- ② 国語の楽しさを児童に感じさせる場面を日常的に作り出すようにしていく。
 - ・ 全員で声を出して音読・暗唱する場面を多く作っていく。
 - ・ 話し合い活動や調べたことを伝え合う活動など、みんなで考える活動（協働学習）を積極的に行っていくようとする。
 - ・ 文を読み説く観点を持って読んでいくように意識させることで「わかった」「できた」という実感を持たせていくようとする。
 - ・ 国語に関する取組を、学校だよりや学校ホームページなどで紹介していく。

取組内容③【区分 言語力や論理的思考能力の育成】の改善点

- ・ 年度当初から「話合いのしかた」を配り、隨時教科に限らず活用していく。
- ・ 話し方、聞き方をもっと意識させるようにする。（話し方・聞き方の掲示の活用、聞き方のルールの再確認など）
- ・ アクティブラーニングに向けて、相手を意識して話す、理由づけて自分の考えを伝える、意見が分かれるような課題や答えがないような課題を話合い、より良い考えを導き出す等、交流の仕方を工夫して行う。

取組内容④【区分 学習習慣の確立】の改善点

- ・ 未提出者が固定化しつつあるので、学習内容の理解度や家庭背景など、課題が提出できない児童の実態を丁寧につかんでいき対応していくようとする。
- ・ 「放課後ステップアップ教室」「淀川区補習充実事業」の活用を更に進め、個別指導が必要な児童については放課後個別指導を行っていく。
- ・ 「会議や研修会の精選」、「11月から1月の最終下校時刻を16:15にする」などして、個別指導に必要な放課後の確保に努める。
- ・ 自ら学習する姿勢を身につけるために、与えられた課題だけでなく自主学習にも取り組ませるようにする。

取組内容⑤【区分　ＩＣＴを活用した教育の推進】の改善点

- ・ タブレットＰＣを活用した授業の推進を図る。
- ・ そのための環境整備を進める。できれば、ＩＣＴサポーター（支援員）を地域の方から募集するなどし、サポート体制を作る。
- ・ 視聴覚部を中心に授業実践例の収集・紹介を行う。
- ・ 指導者がタブレットＰＣを活用することができるよう、研修会や随時ミニ研修会を行う。
- ・ タブレットＰＣに係る年間指導計画の作成を行い、学年ごとに系統的に使用していくようにする。

大阪市立十三小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持・増進】</p> <p>① 学校アンケートにおける「給食後にきちんと歯みがきをしていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を80%以上にする。(90.6%) (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 食に関する知識を広め、食への興味・関心を高めるために全学年で「食育」に関する授業を実施し、学校アンケートで「食を楽しく学ぶことができた」と答える児童を85%以上にする。(86.4%) (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 全国体力・運動能力、運動習慣調査における「20mシャトルラン（持久力）」の平均記録において、全国平均以上にする。(全国平均より3.94ポイント上回る) (カリキュラム改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】</p> <p>生活目標や健康週間、保健指導や学級指導等を計画・実施し、「給食後のはみがき」の習慣を身につけさせる。</p>	A
<p>指標 ① 毎月「きら・ピカウイーク」を設定し、食後の歯みがきの意識づけを図る。(実施済)</p> <p>② 健康週間を学期に1回設定し、学期ごとに「給食後のはみがき」の達成状況をグラフ化する。(実施済)</p>	
<p>取組内容②【区分 食育】</p> <p>授業実践や学校保健委員会・給食指導・栄養指導・給食委員会による活動などにより「食育」に関する取組を行い、食の知識を広め、食への興味・関心を高める。(カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 ① 給食時間に、給食カレンダー・献立表を活用した指導を毎日行う。(毎日実施)</p> <p>② 給食委員会で、年2回「食育」に関する取組の発表をする。(6月、1月に実施)</p> <p>③ 食育教材となる栽培活動を計画し、全学年が野菜作りを行う。(全学年実施)</p> <p>④ 授業参観で食育に関する授業を年1回以上行う。(全学年が年1回実施)</p>	
<p>取組内容③【区分 体育的活動の充実】</p> <p>外遊びやなわとび運動を推進し、体力向上への意識を高める。(カリキュラム改革関連)</p>	A
<p>指標 ① 学期に1回「なわとびチャレンジ週間」を実施し、年間を通してなわとび運動に取り組ませる。(実施済)</p> <p>② 運動場が使える時は、1日3回以上、外遊びに取り組ませる。(1日 3. 3回)</p> <p>③ 月に1回「かけ足デー」を実施し、走る運動に取り組ませる。(夏季を除き体育朝会で実施)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【視点 健康・体力の保持・増進】年度目標の達成状況</p> <p>① 健康週間や「きら・ピカウイーク」の取組み、歯磨き指導などを行い、歯磨きの習慣化を図ることができた。90%を超える児童が歯磨きを給食後に行っていると答えており、目標を上回ることができた。</p>

- ② 十三ふれあい農園での栽培活動を中心に、栄養指導や給食カレンダーを用いた指導、出前授業などを通して、食に関する指導を行った。85パーセント以上の児童が学校アンケートで「食を楽しく学ぶことができた」と答え、食への興味・関心を高めることができた。
- ③ 体育朝会やなわとび名人の取り組みなど、日常の運動の成果が表れ、シャトルランにおいて、全国平均を上回ることができた。

取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】の進捗状況

- ① 毎月「きら・ピカウイーク」を設定し、曜日ごとにめあてをもたせて給食後の歯磨きに取組んだ。また、歯磨き後シールを貼ったり、達成状況をグラフ化して保健室前に掲示したりして視覚的にわかるようにしたことで、児童も意識して歯磨きを行うようになった。
- ② 健康週間を学期に1回実施し、給食後の歯磨きだけでなく、家庭での歯磨きについても、めあてをもって取り組んだ。健康生活チェック表を家庭に持ち帰ることで、家庭に啓発を図ることができた。また、達成状況をグラフ化し、教職員の共通理解を図ることで、指導に生かすことができた。

取組内容②【区分 食育】の進捗状況

- ① 給食委員会が毎給食時間に、給食カレンダーを読み上げたり食育クイズを行ったりしてきた。また、各学級でも給食カレンダーや献立表を活用しながら、給食を中心とした食に関する指導を進めてきた。そのことで、児童の食への興味・関心が高まり、知識も深まった。
- ② 給食委員会が、6月（主に三食食品群、十三五か条の心得ザ・給食編、給食タイマーについて）と1月（全国学校給食週間を受けて主に給食の歴史について）に発表を行い、楽しく知識を広めあうことができた。
- ③ 全学年が野菜作りに取り組み、調理活動を行うことで、楽しく食育を進めることができた。
- ④ 授業参観で食育に関する授業をしたり、保護者と一緒に調理実習を行ったりしてきた。また、学校保健委員会を土曜授業で行ったり、ホームページなどで活動内容を公開したりすることで、食育の大切さを地域や家庭に広めることができた。

取組内容③【区分 体育的活動の充実】の進捗状況

- ① なわとびチャレンジ週間はミュージックタイマーを活用することで児童は意欲的に取り組めていた。さらに、各学期におけるなわとび名人の表彰やなかよし班でのなわとび大会やなわとびの日を設けたことで、体力向上の意識を高めることができた。
- ② なわとびの日やフープの日、学級ボールの整備により、1日3回以上、外遊びに取り組むことができた。
- ③ 体育朝会を活用して「かけ足デー」を実施し走る運動に取り組んだ。

次年度への改善点

【視点 健康・体力の保持・増進】の改善点

- ・ 次年度の取組について検討する。

取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】の改善点

- ・ 給食後の歯みがきの継続指導を行い、指標に具体的な数値目標を入れ指導に生かす。
- ・ 給食タイマーを活用し、歯磨きの時間を確保する。
- ・ 次年度の取組について検討する。

取組内容②【区分 食育】の改善点

- ・ 食育については、例年通り栄養教育推進事業を活用したり、年間指導計画に基づいて学年の実態に応じた指導を日常的に行ったりするようにしていく。
- ・ 栽培計画に合わせて、調理計画を年度当初に立てておくようとする。
- ・ 地域の方の支援を得られるような仕組み、地域の方と子ども達が協働して作物をつくる仕組みをつくる。

- ・ 食に関する出前授業や栽培内容、その活用方法などを一覧にまとめ、次年度に引き継ぎ、活用できるようにする。

取組内容③【区分 体育的活動の充実】の改善点

①③ 次年度に向けて体力向上を図るための方策を考える。

なわとびチャレンジ週間については設定を見直し、児童の意欲を継続できるような方法を考える。
(実施を2学期と3学期にして、両方で大会を実施する。2学期の結果を超えられるように3学期に向けて取り組む)

② 児童の外遊びの実態を調査する。15分休みや昼休みや放課後などの外遊びができる時間をしっかりと確保する。また「走る・投げる・跳ぶ」の動きを、学級遊びや外での遊び方やルール作りなどの指導を定期的に行っていく。

大阪市立十三小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかつた	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた	

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>① 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。(77%) (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 学校アンケートにおける「あなたは、友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、「はい」と答える児童の割合を75%以上にする。(80.4%) (カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「はい」と答える児童の割合を85%以上にする。(86.5%) (カリキュラム改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>自尊感情を高めるとともに、互いを認め合う態度を育てることができるよう、年間計画に基づいて人権教育を実施する。</p>	
<p>指標</p> <p>① 年間計画を策定し、年間計画に基づいて人権教育を実施する。(3月までに実施)</p> <p>② 月1回児童に関する研修会（児童理解研修会・特別支援教育全体会等）を実施し、共通理解を図る。(毎月実施)</p> <p>③ 月1回以上、なかよし班活動や児童集会などの異学年交流を図り、互いに理解し学び合う機会を設定する。(月約3回実施)</p> <p>④ 各種名人を様々な分野で設定し、児童みんなで認め合う場を設ける。(実施済)</p>	A
<p>取組内容②【区分 特別支援教育の充実】</p> <p>「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」を作成し、それらに基づく指導を実施するとともに、特別支援を要する児童と周りの児童がともに活動・交流する機会を増やす取組を実施する。</p>	
<p>指標</p> <p>① 特別支援を要する児童と周りの児童が、ともに活動・交流しながら理解し学び合う機会を毎月実施する。(児童集会などで毎月実施)</p> <p>② 保護者や医療機関、こども相談センター等との連携を月1回以上実施する。(月1回以上実施)</p>	A
<p>取組内容③【区分 道徳教育の推進】</p> <p>道徳の時間を要として、各教科・領域で話合いやグループ活動等で、相互理解・共感を広げる取組を行うことにより、だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。</p>	
<p>指標</p> <p>① 年間指導計画に基づいて学習指導要領に示されている全ての項目を指導する。(3月までに実施)</p> <p>② 「親切・思いやり」の項目に関する指導を、全学年が年1回授業参観で実施する。(全学年実施)</p> <p>③ 年2回「親切・思いやり」週間を実施し、「気持ちカード」を作成してふりかえりを行う。(6月、12月に実施済)</p>	A

取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】

学校のきまりを守ることについて生活目標を設定し、日常的に繰り返し指導する。

(カリキュラム改革関連)

指標 ① 毎月、生活目標についてアンケートを実施し、グラフ化する。(毎月実施)

② 月目標や週目標・学校行事・学級指導・教科・領域での指導などあらゆる機会を通し、日常的に学校のきまりを守ることの意義や重要性を指導する。(実施)

A

取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】

「安全（防犯・防災）マニュアル」を更に見直すとともに、家庭・地域参加型の防犯・防災訓練を実施する。

(カリキュラム改革関連)

指標 ① 防災や防犯など、さまざまな場面を想定した避難訓練を年間3回実施する。

(火災1回、不審者2回、地震・津波1回実施済)

② 防犯教室・交通安全指導を、警察署等と連携して、それぞれ年1回実施する。

(防犯教室1回、交通安全指導2回実施済)

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**【視点 道徳心・社会性の育成】年度目標の達成状況**

- ・児童の実態に合わせて、道徳心や社会性を育成する取り組みを進めてきたことにより、友だちにやさしく接したり、学校のきまりを守ったりすることについては多くの児童ができている。また、多くの児童が「自分の良さ」を見つけることができている。

取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】の進捗状況

- ① 学年の発達段階に応じた人権学習の年間計画を策定し、計画に基づいて人権教育を実施することができた。社会福祉協議会と連携し、様々な福祉体験学習を実施し、児童の人権意識が高まってきた。
- ② 月1回児童に関する研修会（児童理解研修会、特別支援教育全体会等）を実施し、気になる児童や支援を要する児童の共通理解を図ることで、全教職員で指導に役立てることができた。
- ③ なかよし班活動や児童集会、隣接学年との交流など異学年交流の場を積極的に設けることにより、日常的にふれ合い、互いに認め合い学び合う姿が多く見られるようになった。
- ④ 「暗唱名人」「読書名人」「なわとび名人」の認定・紹介や、「十三がんばり名人」の紹介を通して、人に認められる心地よさを実感したり、友達の意外な一面を知ったりするなど、自他を認め合う機会となった。

取組内容②【区分 特別支援教育の充実】の進捗状況

- ① 児童集会やなかよし班活動、学級での取り組みや校内掲示板等で学習の様子を紹介することを通して、特別支援を要する児童と周りの児童が共に活動し、自然な形で交流することができた。日常的なかかわりが特別支援を要する児童を理解する機会となり、学年に関わらず休み時間に一緒に遊んだり、声を掛け合ったりする姿が多く見られるようになった。
- ② 保護者と毎日連絡ノートで家庭と学校の様子を知らせ合い、必要に応じて医療機関やこども相談センターと連携するなど、より良い支援や指導を行うよう努めてきたことで、一人一人の持ち味を生かし、スマイルステップで成長が図られた。

取組内容③【区分 道徳教育の推進】の進捗状況

- ① 年間指導計画の見直しを図り、学習指導要領に示されているすべての項目の指導ができるように、学習の記録を取りながら指導を進めてきた。年度末には、計画通り全学年がすべての項目を指導できる予定である。
- ② 全学年が、授業参観で「親切・思いやり」の項目に関する授業を行った。授業を通して、学校の取り組みを知らせることができた。

- ③ 6月と12月に「親切・思いやり週間」を設定した。6月には、気持ちカードで自他のがんばりを確認する機会を持つことができた。12月には、一人一人が思いやりについて考えた「思いやり絵手紙」を作成し、掲示板や玄関に掲示した。これらの活動を通して、全校で「思いやり」の大切さについて考え、他人に親切にすることへの意識を高めることができた。

取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】の進捗状況

- ① 毎週、生活目標についてのアンケートを実施し、グラフ化することで学校全体の児童がどのくらいきまりを守れているか把握し、指導に生かすことができた。
- ② 月目標や週目標・学校行事・学級指導・教科・領域での指導などあらゆる機会を通し、日常的に学校のきまりを守ることの意義や重要性を指導してきたことできまりを守ろうとする意識が高まった。

取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】の進捗状況

- 防犯や防災など、さまざまな場面を想定した避難訓練を年間4回実施することで、児童や教職員の防災・防犯意識が高まった。
- 防犯教室と交通安全指導については、警察署やセーフティ一淀川などと連携して実施した。
- 防犯教室、一日防災デーでは、家庭・地域ぐるみで防災に対する意識を高めることができた。

次年度への改善点

【視点 道徳心・社会性の育成】の改善点

- 自尊感情の低い児童への支援方法を考えていく必要がある。家庭背景を含めて日常の様子から要因を探っていく必要がある。また、互いに認め合える集団の育成に努める。
- 必要に応じてスクールカウンセラーや巡回相談等外部機関とも連携・相談する。
- 自他ともに認め合える場面を作り出していく。

取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】の改善点

- ① 年間指導計画の点検を行い、効果的に実施されていたかを確認する。
- ② 児童に関する研修会の持ち方を検討する。
- 児童理解研修会を学期に1回の実施に変更する。(1学期のみ学期初めと終わりの2回)
 - 職員会議で「児童理解」のコーナーを設け、共通理解したいことについて報告・審議する。
- ③ 異学年交流のために、縦割り班で行う「なかよし清掃」を行う。
- ④ 発表の仕方を検討する。
- 年度初めに「がんばり名人」の種類を決め、各自で目標設定をし、取り組めるようにしていく。

取組内容②【区分 特別支援教育の充実】の改善点

- 特別支援を必要とする児童への対応、手立て、支援のあり方について研究、研修、実践を深める。
- 本年4月に施行される「障害者差別解消法」に求められる「合理的配慮」を視野に入れた環境整備や準備(視覚支援など)、研修などを進めていく。

取組内容③【区分 道徳教育の推進】の改善点

- 道徳の年間指導計画の実施時期や内容を見直し修正する。「道徳全体指導計画別葉」を活用し、学習したことを見直す場として、全教育活動を通して道徳教育を意識して指導にあたる。具体的には、言葉遣いや他者を理解する活動などを学級活動や児童会活動等で取り組むようにする。
- 指導材やワークシートを保管し、次年度に活用できるようにする。
- 教科化に向けて、校内研修を行ったり研究会に参加したりする。

取組内容④【区分 基本的生活習慣の定着】の改善点

- ・児童の意識は高まってきたが、学校のきまりが守れるよう今後も継続指導を行う。
- ・年度当初に「学校のきまり」(持ち物も含め)を確認し、全教職員の共通理解のもと、組織的に指導にあたる。

取組内容⑤【区分 安全・防災教育の推進】の改善点

- ・次年度は火災1回、不審者1回(休み時間)、地震、津波1回(一日防災デー、引き渡し訓練)、を実施する。地震、津波(一日防災デー、引き渡し訓練)は土曜授業を活用することで保護者が参加しやすくなる。
- ・防犯教室・交通安全指導は継続して年1回ずつ実施する。
- ・不審者対応の職員訓練を初期対応が突破されたときのことを想定し夏休みに実施する。
- ・淀川区消防署と連携した「津波」に対する防災学習・訓練を行う。

大阪市立十三小学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学校・地域の連携】</p> <p>① 学校教育に関わる取り組みへの家庭・地域の参加者数を、年間350人以上にする。 (671人) (ガバナンス改革関連)</p> <p>② 学校から発信する情報を充実させ、取組内容の認知度を85%以上にする。(90.6%) (保護者アンケートにより検証する) (ガバナンス改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】</p> <p>学校行事や教科・領域指導・読み聞かせ・放課後ステップアップ教室・見守り隊活動・交通安全指導・防犯・防災訓練などの取組への家庭・地域の参加を図る。 (ガバナンス改革関連)</p>	A
<p>指標 「地域との活動 年間指導計画」を策定し、取組内容や時期・参加体制等を一覧表にして地域に配布し、ホームページに掲載する。(配布、掲載済)</p>	
<p>取組内容②【区分 情報発信】</p> <p>学校だより・学校ホームページを通して情報を発信し、学校の取組に対する情報の共有を推進する。 (ガバナンス改革関連)</p>	A
<p>指標 ① 学校だよりを月1回以上発行し、情報の共有を図る。(学校だより月1回、特別号2回発行)</p> <p>② 情報の共有を図るため、学校ホームページを週2回以上更新する。(週3回更新)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【視点 学校・地域の連携】年度目標の達成状況</p> <p>① さまざまな取組を家庭・地域に紹介し、参加を呼び掛けた結果、2月時点で目標を上回る671名の参加者数を達成できた。家庭・地域と連携した取組を行うことで、教育の充実を図ることができた。</p> <p>② 十三小だよりや学年だより、ホームページなどを通して取組を紹介した結果、学校から発信する情報を90%以上の保護者が認知することができ、目標を上回ることができた。</p>
<p>取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域との活動 年間指導計画」を策定し、取組内容や時期・参加体制等を一覧表にして地域に配布し、ホームページに掲載した。様々な学校の取組に多くの保護者や地域の方々に参加してもらうことができた。
<p>取組内容②【区分 情報発信】の進捗状況</p> <p>① 毎月の学校だよりや学校だより特別号、学年だより、はなまる連絡帳で、学校からの情報を伝え情報の共有を図った。</p> <p>② 学校ホームページを平均週に3回更新することで、ホームページの年間閲覧数が2月時点で19000アクセスを超える、目標を大きく上回ることができた。学校での出来事を頻繁にホームページにアップすることで地域・保護者との情報の共有を図ることができた。</p>

次年度への改善点

【視点 学校・地域の連携】の改善点

- ・ はぐくみネットワークの組織化・立ち上げのため、地域と連携を図る。また、そのための学校支援体制を整えるとともに、よりよい学校支援の活動を模索していく。

取組内容①【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】の改善点

- ・ 今後も学校行事の取組を家庭・地域に伝え、参加者数を増やしていくようにする。

取組内容②【区分 情報発信】の改善点

- ・ ホームページを作成しやすい体制づくりのために「ホームページ運営委員会」を立ち上げ、ホームページ作成における課題や取組について話し合い、よりよいホームページ作成の体制・取組について計画していく。
- ・ 日常の学習や生活のようすなども、紹介していくようにする。

H.27 地域との活動 参加者数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	備考
4月							見守り隊・スクールレンジャー隊の方々との対面式 ⑩
5月		町たんけん ⑤	町たんけん ⑥				
6月			学校保健委員会	ふれあい農園 (いも苗植え) ③	十三干潟で遊ぼう ⑯		見守り隊 ⑩ よもよも ⑯
7月			民謡(盆踊り)練習 ⑩		なかよし集会 ⑯		
8月			プール開放・図書館開放	⑩	⑯		図書館開放 ⑯
9月			敬老の日のお手紙				プール開放 ⑯
10月			交通安全指導(集団歩行) ⑩		土曜参観(防災学習デー) ⑯		敬老の日のお手紙 ⑯
11月			地域ふれあい清掃 ⑩				
12月			絵手紙教室 ⑩				
1月	聴導犬 ③	車いすの お話 ③	車いす 体験 ⑧	高齢者 体験 ⑧	書道教室 ⑪	戦後70年のお話 ⑧	放課後ステップアップ教室 ⑥
2月			七輪体験 ⑯			茶道教室 ④	ゆかいな 中国講座 ⑦
3月			見守り感謝の会 ⑩				